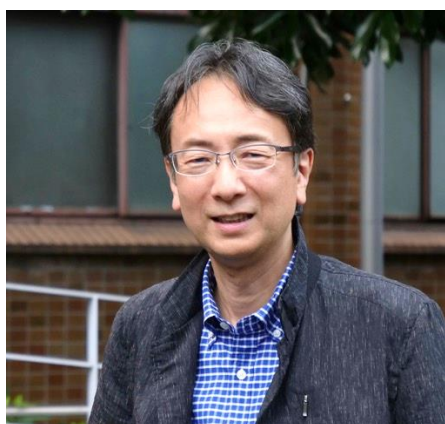


# GTRセミナー



## 生物はなぜ、老化して死ぬのか

10月27日（金） 15：30 - 17：00 講義室：A222



### 小林武彦先生

東京大学

定量生命科学研究所

教授

地球上には約800万種の生物が存在すると言われています。それらの全ての生態がわかっているわけではありませんが、それらはいずれは死ぬ運命にあると推察されます。生物は進化の結果できました。進化とは「変化と選択」が繰り返されるプログラムのようなものです。「変化」とは多様性を作ること。そして「選択」はその中で、環境にあったものが生き残ること、別の言い方をすれば、それ以外のもものは死ぬということです。つまり、死ぬことによって進化が進行し、私たちを含む全ての生き物が誕生したということになります。ですので死なない生き物は理論上存在しないことになります。

死は老化によっても引き起こされます。老化の1つの原因はゲノムの傷の蓄積です。興味深いことに、ゲノムには壊れやすいところがあり、そこが細胞の「老化スイッチ」を入れていることがわかってきました。そのスイッチによる老化シグナルの正体がわかれば、老化および寿命を制御できるかもしれません。

大学院特別講義（10月26-27日）の一環として公開セミナーを行います。  
皆様のご来聴を歓迎します。

連絡先：理学研究科生命理学講座 西村 浩平(内線2988)  
nishimura.kohei.x8@f.mail.nagoya-u.ac.jp